

スピンドル

日本金属製造情報通信労働組合
八幡・戸畑・中間・遠賀地域支部
教宣部
2016年 9月号

1、雇用情勢について

総務省が8月30日発表した労働力調査によると、7月の非正規社員数は前年同月比69万人増の2025万人で、役員を除く雇用者に占める割合は37・6%でした。非正規社員数、率ともに7月としては最も高くなりました。

15～64才の就業率は前月と同じ74・5%で、比較可能な68年以降で最高となりました。

完全失業率（季節調整値）は前月比0・1ポイント低下の3%となり、2カ月連続で下落しました。

1995年5月（3・0%）以来、21年2カ月ぶりの低水準。女性の就業者が増えた一方で失業者が減ったためです

完全失業者数は前月比7万人減の201万人。

就業者数は20万人増の6476万人で、うち女性は22万人増の2832万人。

女性の失業率は0・3ポイント低下の2・7%と93年9月（2・7%）以来、22年10カ月ぶりの低水準でした。

厚生労働省が同日発表した7月の有効求人倍率（季節調整値）は1・37倍で、24年10月カ月ぶりの高さだった前月の水準を維持しました。

求人倍率は企業の求人票を受け付けたハローワークの受理地別、実際に働く就業地別とも全都道府県で1倍を超えました。

求人倍率はハローワークに申し込んだ求職者1人当たりの求人数を示します。

7月は求職者数が0・4%増にとどまったのに対し、求人数は0・7%増とそれ以上に膨らみました。

求人は訪日客の増加で宿泊・飲食サービスが増え、個別指導方式が定着した教育・学習支援業の堅調でした。ただ、正社員の求人倍率は0・88倍と、求職者1人に1人分も求人がありません。

受理地別の求人倍率は、最高が東京の2・04倍、最低が埼玉と鹿児島の1・03倍。

就業地別では、最高が福井の1・82倍、最低が北海道の1・09倍でした。

*九州各県と山口県の有効求人倍率

福岡1・32、佐賀1・13、長崎1・16

熊本1・33、大分1・23、宮崎1・26

鹿児島1・03、沖縄1・04、山口1・41

8月27日（土）10：～（労働金庫会館にて）鹿児島県労連定期大会で雪竹委員長二つの発言

一つは有水さんの事務局長カンバックを喜ぶ

二つはJMITUの新リーフレットを補強しつつ、全国一律最低賃金制の法制化の闘いへの決意を述べる

雪竹委員長はJMITU鹿児島地域支部の代議員の資格での出席でした。黒崎を6時台の特急で博多に、新幹線に乗り継ぎ鹿児島中央駅に9時半に到着、タクシーで会場に向かいました。

事務局長にカンバックされた有水さんは、ご病気で長く療養されていましたが、10年も前に「雪竹さん、JMIUを鹿児島につくりましょうね」と激励をいただいていた方で、JMITU鹿児島地域支部が今日存在するのは、ひとえに当時有水事務局長のおかげなのです。

